

令和6年度 第3回はんだ環境パートナーシップ会議録

開催日時	令和6年12月19日(木) 14時00分～15時30分				
開催場所	半田市リサイクルセンター2階 大会議室				
会議次第	1. あいさつ 2. 自己紹介 3. 懇談テーマ「半田市の環境の取り組みについて」 (1)「産業まつりでのリユース事業」の実施報告について (2)(仮称)環境大学の見学候補先について 4. その他				
出席委員 ※敬称略	会長	千頭 聡	副会長	森下 久子	
	委員	山田 尚登	竹内 寿徳	小川 彰子	
		榊原 靖	安達 典孝	牧野 純子	
		神戸 繁明	高原 英樹	貝沼 亜紀子	
		川島 祥子			
欠席委員 ※敬称略		石川 毅			
出席職員	事務局	市民経済部長	大山 仁志	環境課長	太田 敦之
		副主幹	森下 直孝	副主幹	山田 隆康
		主査	井戸 敏史	主事	片山 高也
次第	<p style="text-align: center;">議 事 概 要</p> <p>各委員の発言は、市民・団体の代表としての発言ではなく、あくまで個人としての発言です。</p>				
1. あいさつ	-環境課長あいさつ- (略)				
2. 議事	<p>(事務局) 事務局の山田です。どうぞよろしくお願いいたします。</p> <p>このパートナーシップ会議も昨年から役割を見直し、委員の皆様が意見を言いあえるような場といたく、席の配置など工夫をさせていただいているところです。また、今回は、試験的に冒頭の会長あいさつなどは省略していますのでご理解いただきますようお願いいたします。</p> <p>本日の進行も少しやり方を変えまして、進行を事務局でさせていただきます。懇談のところでも、フリートークで進めていければと考えています。</p>				

次に、自己紹介へ移らせていただきます。

まず、本日より、中部電力パワーグリッド様から竹内様が新しく委員として委嘱しています本来、市長から委嘱するところではございますが、机上に委嘱状を配布させていただいておりますので、ご了承いただきたくよろしくお願いたします。

今回、初めてお会いする方もいらっしゃると思いますので、簡単な自己紹介から入りたいと思います。

順番に、お名前とどのような活動をされているかを簡単にお話いただければと思います。

—自己紹介—

ありがとうございました。

今回は、懇談テーマを「半田市の環境の取組について」とさせていただきました。「産業まつりでのリユース事業について」と「(仮称)環境大学見学先候補」の二つについてお話をさせていただきたく、また、それ以外のテーマもお話をいただければと思います。

フリートークでかしまらずに進めていきたいと思います。

15時15分までを予定していますのでよろしくお願いいたします。

フリートークへ入る前に、千頭先生からもご助言をいただければと思います。

(会長)

設立の当初から関わっている「なごや環境大学」は、今年で20年を迎えます。ここでは、年間600から700の講座を開催しており、2万人を超える参加者がいらっしゃいます。環境学習の場としては、やはり行政が講座を主催するケースが多いのですが、なごや環境大学は実行委員形式で行っています。この実行委員には行政だけでなく、民間企業やNPOが参加し運営を行っているため、行政だけではできないことにも取り組むことができたり、色々なアイデアが出てきたりしています。色々な立場の方が集まる、この半田市のパートナーシップ会議においては、この指とまれで、興味のある方々を集めて取り組んでいけると良いのではと想います。

以前、兵庫県の西宮でこどもエコクラブを作りました。当時はスタンプカ

ードを配布し、学校で環境のことを勉強すると先生がスタンプを押してくれたり、再生紙のノートを購入したらレジの係の方がスタンプを押してくれるなど、様々な環境活動に対しスタンプを押してくれる仕組みを作りました。

多くの人に関わることで、たくさんのアイデアが出てきます。これにより、面白い仕組みを作っていけるのではないのでしょうか。

周りの人を巻き込んで、このパートナーシップ会議でアイデアを出し合うのが楽しくなるような場にしていきたいと思います。

(事務局)

ありがとうございました。

ここで、JFE スチール知多製造所様の取り組みをご紹介します。

現在、JFE スチール知多製造所様では、工場敷地内にビオトープを作り、自然環境の保護に取り組まれています。この活動の一つとして養蜂に取り組まれており、ここで取れた蜂蜜を使った飴をパートナーシップ委員の皆様にご提供いただきました。

このビオトープは、(仮称)環境大学の見学先候補地としてもピックアップしていますので、参考にしていただければと思います。

それでは、「産業まつりでのリユース事業」について、環境課ごみ減量担当から報告させていただきます。

(ごみ減量担当)

令和6年11月10日(日)に、半田びよログスポーツパーク(半田運動公園)で開催された「ふれあい産業まつり」にて、リユースイベントを実施しましたので報告します。

報告に先立ち、本イベントの開催にあたり、パートナーシップ委員のうちお二人に合計で3日間お手伝いをいただきました。「もったいないバザール」を経験されているお二人の助言に大変助けていただきました。ありがとうございました。

本イベントの準備段階では、修理せずとも簡単な手入れや拭き掃除を行うことで売れるものを安価で販売しました。委員には、漫画の日焼けをヤスリで削るなど作業していただきました。

価格設定は10円から最高で3,000円までとし、棚や机、おもちゃ、ハンマーなどの工具、古本、漫画、絵本、古着を商品として販売しました。

リサイクルセンターには家電も集まりますが、内部の損傷等により事故のおそれがあることから、出品はしないこととしました。

商品はテント横や裏のスペースにも展示し、テントにはリユース啓発の看板を設置しました。想定以上の大盛況で、売れるかどうか半信半疑であった商品も大半が売れていきました。特に工具や農機具はすぐに売れていった印象で、衣装ケースや木製のラックなども売れました。

結果として20,030円の売上があり、本来ごみであったものがリユースされることにより約380kgの減量を実現することができました。

今後の展開として、もったいないバザールを復活させるのか、常設のリユース場を設けるのか検討を深める必要がありますが、既に次の展開に向けリユース可能な受け入れ物の取り置きを行っているところです。

(事務局)

参加された委員の方の感想をお聞きしたいのですが、いかがでしょうか。

(委員)

多くの方がお見えになり、関心も高かったように感じました。

面白いと思ったのは、ビニールプールの中にプラスチックのおもちゃを入れて販売していたのですが、最初あまり売れなかったのなぜかと思い、ままごとで使う野菜のおもちゃ(マジックテープでくっつくもの)をセットにして置き始めたらどんどん売れていったことです。

380kgのごみ減量というお話が先程事務局からありましたが、それだけではなく、実際に大量のCO2を排出して製造された商品たちなので、製品自体の重さは380kgだけど、製品を作るために使用した電気代に換算したらや、CO2に換算したらといった視点で見ることができると、もっといいんじゃないかなと思いました。

(委員)

職員の方の準備が完璧で驚きました。持ち帰る際の袋を用意したりすることを考えていましたが、既に紙袋が用意されていたり、価格などの説明もわかりやすく、リユースの啓発もあったので、全体的にすごくよかったです。

服と本が少し残ったのですが、ほとんど残るものがなく販売することができました。

雨の予報もありましたが、降らずに済み、当日の朝には開店前に予約してくれる人もいたりして、楽しく1日過ごせました。

(事務局)

ご質問等がある方はいらっしゃいますか。

(委員)

商品は普段の資源回収やごみ回収で集めているのでしょうか。

(ごみ減量担当)

リサイクルセンターに持ち込まれたもののうち、リユースできそうなものを商品にしています。

(委員)

最高値の3,000円が付けられた商品は何だったのでしょうか。

(委員)

将棋盤です。脚のついた立派なもので、さすがに数百円で販売することはできないと思い、3,000円を付けました。

(委員)

フリーマーケットでは儲けを考えて出品される方もいるが、今回のような取り組みはリサイクルやリユースを進める上で良い取り組みだと思います。

(市民経済部長)

家具が持ち込まれる際に、分別のために大きな金具を外してもらっています。リユースで販売することを考えるとそのまま持ち込んでもらった方が良いのですが、実際にリユースに回すかが定かではない段階であることを考えると、難しいところです。

(ごみ減量担当)

キャンプチェアは金属部分と布部を分けて持ち込んでいただいていますので、ちょっともったいないなと思います。

(委員)

リユースイベントを広く PR できると、まだ使えるものを集めることに誘導できるかもしれません。工夫できる余地がありそうですね。

(委員)

今後のことを考えると置き場の課題があるので、解決する必要があります。

(委員)

学生たちは古着を普通に来ているので、洋服のリユースは成り立つと思います。

(ごみ減量担当)

古着についての課題として、着る季節が終わってから捨てるので、季節感がずれてしまいます。今回は夏物が多かった印象です。

(委員)

それと、洗濯の問題があります。どういう状況で回ってきたものかがわからないので、リスクがあると言えはあると考えています。ただ、すべて洗濯するとなると非常に大変です。

(委員)

価格設定はどうだったのでしょうか。

(委員)

せめて 50 円からの販売にしたいです。10 円ではあまりにも製品がかわいそうです。

(委員)

100 円からなら買ったあとも大切に扱ってもらえるでしょうか。

(事務局)

価格の設定については来年度に向け考えていきたいと思います。実際、小銭の問題もあると聞いています。リユースについては今後も懇談テーマとして続けていきたいと思います。

それでは、次のテーマへ移ります。

「(仮称) 環境大学見学先候補」についてです。

発案者の委員から想いを伝えていただければと思いますが、いかがでしょうか。

(委員)

愛知県は県内の事業者に対し、愛知環境賞を授与しています。

環境賞を受賞した施設の見学に行ったことがありますが、そこでは資源循環の取り組みを実施していました。半田市内にも環境に寄与する事業を行っている企業があると思います。

リサイクルセンターなどでも配布しているアスパの使い方を勉強するとか、ガラスを捨てるだけじゃなくて、リサイクルするとか、様々なことに取り組んでいきたいです。

過去の推進部会では、もったいないバザールや水辺マップの作成を行っていました。バスでの見学ツアーとしてバイオマス発電所やソーラーパネルの説明を聞くとか、休耕田でヒマワリを育て、そのヒマワリで油を作る取り組みを行っている事業者さんがいらっしゃるということも聞きました。見学先としてはそうした事業者を選定していきたいです。

実施するにあたっては、高校生や大学生が参加できるような形で、イベ

ントとして実施していけたらと考えています。

それともう一点、リサイクルセンターの活用方法も含めて考えて良いのではと思います。

(事務局)

事務局側でビオトープやバイオマス発電所をピックアップしました。企業のホームページからの情報ですが、少しご紹介させていただくと、アイシンのエコトピアは独自で見学受け入れをお個あっている施設で、エコな体験をできる施設が併設されています。

冒頭に紹介した JFE スチール知多製造所のビオトープはまだ完成して間もないビオトープですが、半田農業高校と連携して米作りを行うなど、精力的に取り組まれています。

豊田自動織機は野鳥に特化したビオトープ「バードピア」でコアジサシが飛来しているそうです。

日本ガイシは場所が岐阜県ですが、社有林で活動を行っており、植林や養蜂、環境保全を実施しています。

中埜総合印刷では森を所有しており、多くの植物を保護しているようです。

バイオマス発電所としては

皆様ご存知のとおり、市内にはサミット半田パワー、CEPO 半田、バイオぐるファクトリー半田の3つがあり、このうちバイオぐるファクトリー半田は食品残渣や牛ふん尿から発電しています。

(委員)

サミット半田さんの見学会に参加させていただいたが、非常に良かった。大変勉強になった。バイオマスつながりでバイオクラシックス半田を是非見学したい。トマトの栽培もされているとのことなので、興味がある。

(委員)

商工会議所の中でオープンファクトリーに携わらせてもらっています。今回は 28 社に参加いただき、工場見学会を実施しました。サミットさんにも参加いただき、バイオクラシックスさんには昨年度に引き続き参加いた

いただきました。

ビオクラシックスさんは金曜日の開催でしたが、ラーケーションを使ってなのか学校を休んで参加してくれる方もいて、札止めになるくらい大人気でした。行政視察も多いようで、スタッフの方も見学に慣れている印象を受けました。ただ、地域に向けての見学会があまり多く開催できていないとのことで、忙しいので難しいところもあるかと思いますが、空きを見つけて見学に行けると良いですね。

(委員)

以前ビオクラシックスさんには規格外のトマトを子ども食堂に寄付していただいたことがあります。

(事務局)

中学校のみの実施ですが、バイオぐるファクトリーの排熱等を使用して栽培したミニトマトを12月3日の給食に出していただきました。

当初は加工して提供する案もありましたが、最終的にはそのまま出したとのことです。

(委員)

オープンファクトリーには弊社も参加させていただきました。対応の関係で金曜日に限定したこと、見学コースに高所が含まれるため、安全上の配慮から高校生以上の受け入れとしたことにより、あまり関心を持っていただけなかったと感じています。

参加いただいた方からは好評だったと聞いています。

バイオマス発電所の違いで言うと、私達の施設では建築廃材を使用していません。CEPOさんはリサイクル材を使用しています。バイオぐるファクトリーさんは電気だけでなく、発電過程で出る熱やCO2をトマト栽培に活用しており、また、発電のための原料の一部に畜産ふん尿を使っておられますので、多くの方に興味を持っていただける施設の一つではないかと思えます。

今後の展開ですが、市内の施設だけではなく、近隣市町でも色々と興味深い取り組みをされていますので、そうした施設への見学も検討してはいか

がでしょうか。

(委員)

自動織機さんのバードピアですが、コアジサシは裸地が好きな鳥で、そうした場所に営巣します。例えば、工場敷地の中で小石がごろごろしているような場所を1年単位で営巣スペースとして空けておくことはできるのでしょうか。

1年ずつで良いので、コアジサシが営巣する場所を作れるといいですね。

(委員)

見学会には是非参加したいと思っています。一つ提案するなら、見学で見に行くだけではなく、参加型というか、参加者も自然・環境に良いことをやってみようというイベントはどうでしょうか。

また、こういった取り組みを中学校や小学校の中に入れていけると良いですね。

無農薬の野菜を作るために、糸状菌を活用している方をネット上で見ましたが、あのような取り組みを体験型の環境学習として実施できると面白いと思います。

(委員)

リサイクルセンターで集めている草や枝はどのように処理していますか。

(ごみ減量担当)

すべて委託に出して処理してもらっています。

(委員)

これだけ広い敷地があるので、一部だけでも堆肥化に回せると良いですね。

(委員)

環境大学の候補地として挙げていただいた施設は、一市民として大変興味があります。市民討議会から掘り下げて、このような展開になってきましたが、体験、経験、学びができる機会を創出するという取り組みは非常に

大切だと思えます。

(事務局)

皆様、ありがとうございました。

見学会の候補地については、今日いただいたご意見をもとに、改めて検討させていただきます。

(環境課長)

それでは、本日の会議はこれにて終了とさせていただきます。